

完
14/3/11
馬在

14/3/11

和蘭工師文書目錄

文書所在地

- 治水……治水雜誌
- 沿……利根川改修沿革考
- 東京……東京土木出張所蔵
- 大阪……大阪土木出張所蔵
- 新潟……新潟土木出張所蔵

ドールン

年次	文書名	文書所在地
明治五	治水總論	治水一、二、四、五
五	大阪築港手段	東京
五	大阪波止堤圖	大阪
明治六	日本水政 第二十四号 土砂留、一件 石井土木助宛	東京・大阪
六	日本水政 第十八号 河水改修、考按	沿・東京
六	諸河、改修及大阪京都琵琶湖間ニ通船ヲ開ク考按	東京・大阪
六	日本水政 第三十二号 大津ヨリ京都迄、間道路營繕ノ趣旨	東京
六	日本水政 第三十三号 馬車轍路	東京
六	日本水政 第十号 器械等購求、件	沿・東京
六	日本水政 第三十二号 砂川、件	東京

明治六	港川修築見込書	東京
七	エツセル淀川理正書、副書	大阪
七	日本水政第七十八号 淀川改修	大阪
一〇七	粗桑筏採ノ件 <small>修築港川</small>	東京 <small>神奈川港使、</small>
一〇	日本水政第一二八号 水戸運河	沿・東京
一〇	日本水政第一二二号 吉田用水溝	沿・東京
一一	日本水政第一四三号 本宗道地先鬼怒川工業ノ件	沿・東京
一二	猪苗代上申	東京

デレレケ

デレレーケ

年次

文

書

名

文書所在地

明治六
十
九

柴工水刃 (デレレーケ書)

フナドシニ完

東京、工務局

河川改修 附録第四

東京

大阪末流目論見 小野末推助宛

東京、大阪

淀川改修 土砂阻塞ノ部 件

東京、大阪

阪港目論見 上下両

東京、学会、大阪

築港目論見物料表

東京、学会、大阪

桂川施業順序 (エツセル共著)

大阪

桂川改修説 (エツセル共著)

東京、大阪

天保山築港計算表

東京、学会、大阪

天満橋以下改修ノ件

大阪

明治九年
九月
末
刊

明治九 宇治川及大池疏通ノ件

大阪

一〇 長崎港 埋埋後深及港内規則ノ件

大阪

一〇 澗川改修柴工水刳概略 (工部ル共著)

東京工要録 大阪

一一 坂井港工ノ概略

富港史

一一 木曾揖斐長良及庄内川流域概況

大阪

一一 木曾川流域岐阜以西山林ノ件

大阪

一一 庄内川山丘土砂流送ノ件

大阪

一一 博多築港略圖進呈ノ件

大阪

一一 大阪港調査

富港史

一一 淀木曾兩河流域樹木保護ノ件 付上申

大阪

一一 耕地及河流除害法即山林植樹ノ件

大阪

一一 山林保護ノ件

大阪

一一 新神崎川悪水路修治ノ件

大阪

一三 新神崎川悪水路修治、件

大阪

一三 福岡港内放水閘築設、件

大阪

一四 木曾川流域砂防工費、件

大阪

一四 廣島築港 京橋川宇品島間海堤建設、件

大阪

一四 淀水曾兩河流域樹木保護、件

大阪

一四 淀川改修費及砂防費分配、件

大阪

一四 福岡港内放水閘築設、件 築港費節減計畫、件

大阪

一五 長崎港内浚渫、件

大阪

一五 廣島築港、件

大阪

一六 長崎港計畫圖、件

大阪

一七 廣島築港、件

大阪

一九 横濱港計畫

横濱

二〇 大阪築港及澱川高水修治、件 上申

東京、学会、大阪

二〇 利根運河計畫改訂 (ムルデル共著)

沿、東京

内務省東京土木出張所

明治二〇 大阪港及澁川高水路改修改正計畫

二一 横濱港斗色局調査

二二 東京港調査

二三 澁川大和川調査復命書

二四 蘭國昇濕地ノ狀況

二五 多摩川検査報告

二六 日本治水上ニ係ル所見

二七 水源涵養法施行緊急ノ主意

二八 仙台湾築港調査

二九 附録卷、并二、和也、三、右記ニ各共ノ便養

経歴

東京・学会・大阪

横濱築港史

東京市史稿

東京市史稿
東京・学会・大阪

治水雜誌

治水

治水

治水

右記

ハシノト...
一九一九年二月

大正...
多ノ...
...

...

...

二一	横濱港斗色局調査	横濱築港史
二二	東京港調査	東京市史稿
二三	澁川大和川調査復命書	東京・学会・大阪
二四	蘭國昇濕地ノ狀況	治水雜誌
二五	多摩川検査報告	治水
二六	日本治水上ニ係ル所見	治水
二七	水源涵養法施行緊急ノ主意	治水
二八	仙台湾築港調査	右記
二九	附録卷、并二、和也、三、右記ニ各共ノ便養	
	経歴	

入レテ

三 昭和四年四月八日

ムルデル

年次	文書名	文書所在地
明治二二	新潟港測量 <small>(七ノ丸 中ノ丸 上ノ丸)</small>	文書所在地
一四	東京港測量 <small>石井素直長宛</small>	東京市建設局
一四	中條村用水路	沿・東京
一六	函館港測量報告	
一六	鬼怒川本宗道地先粗築工 石井素直長宛	沿・東京
一六	富山縣下河川調査	新潟
一七	野蒜港測量	宮崎縣
一八	備前渠改修計畫 三島土木局長宛	沿・東京
一八	利根運河計畫 全	沿・東京
一八	中田・栗橋間鐵道橋調査 全	沿・東京

延徳孫令上甲二二
甲子函志函巻七

明治二十二年

明治

二〇

横濱港計画

横濱港歴史

二〇

大阪港改築淀川洪水修治計畫調査意見書

東京學會、大阪

二〇

利根運河計畫改訂 (デレーケ共著)

沿・東京

二二

下関港計画

内務省東京土木出願所

エツセル

エツセル

年次

文 書 名

文書所在地

明治 五

澁川

古河系

附録第五 大阪より伏見至ル澁川改修ノ價算合計

大阪

全 第六 全

繰越装置價算ノ概略

東京

澁川理正書 (ドールン宛)

東京・大阪

附録第一 澁川改修大意

大阪

桂川改修説 (デレーケ共著) 小野土木助宛

東京

桂川改修價算表

大阪

澁川水深ヲ維持セシムル工法ニ付 試用上申 小野土木助宛

東京

大井川改良通航計畫ノ件

大阪

坂井港(現所)計畫

大阪

報告書 上甲
七月上旬
七月中旬
七月下旬

内務省東京

明治 九

一二

中津川分疏ノ件

新瀨港ニ由

(ハナト共月)

大阪

内務省東京地方出張所

ハナト共月

リンドー

リンドー

年次	文書名	文書所在地
明治五	利根川測量	
六	日本治水ノ説 江ノ川	沿・東京
六	大河津分水調査	

ドイツセン

年次

文

書

名

文書所在地

明治六年

澁川測量

六年十二月末迄



No.

和蘭工師文書目録

其他

Handwritten notes in the top right corner, including dates like 14/1/17 and 14/1/23.

14/3/23.

(内務省東京土木出張所)

14-3-23

7/19

(No.)

凡例

又書所在附字

治水

治水雜誌所載

治

利根川改修治草子 (內務省東京土木出張所刊)

東京

內務省東京土木出張所刊

大阪

大阪土木出張所刊

新澤

新澤 刊

(內務省東京土木出張所)

(No.)

明治二七

函館港調査年画

岩手県

メイフ

(内務省東京土木出張所)

(No.)

明次
人

大坂
橋
津
築
港
斗
西

日
津
築
港
斗
西

プ
ラ
ト
ン
(
英
人
)

(内務省東京土木出張所)

(No.)

子
年

東京造形部、意見

儿
一
一
(佛人)

50
50
50
50
50

(内務省東京土木出張所)

(No.)

明治二七

地籍調査

地籍調査

シエーラス (英人 三喜三藏)

(内務省東京土木出張所)

WR
14/6/19
坪の... 中... 一... 二... 三... 四... 五...
公使館内... 云

和蘭系

イ、ア、リンドウ

明治五年 (1872)

日... 明治八年 (1875)

帰園

利根川、測量... 従事... 沈床工施工... 靴ヲ示ス、海濱... 此... 好... 云々

氏ハフアン・ドールン (C. I. Van Doorn) 氏ニ随ヒ来ルセリ云々

ゲ、ア、エツセル

明治六年九月... 来ル

帰園

アハ、テカ、キツセン

明治六年 (1873) 十二月... 来ル

八月 (1876) 帰園

右ニ氏ハ淀川、測量及ニ... 来ル

ヨハ、デー、シーケ (Johannes De Ryker)

明治六年 (1873) 来ル

明治三十四年 (1901) 帰園

明治二年 (1869) 来ル

氏ハ 和蘭 ストラインガ... コリンス... プラート... 村... 生... 部... 云々

海濱... 好... 云々

土木理學講師。ロンドンブリット氏ノ門ニ入り研學シ、後ヘーデル
 王土木學會士會ノ通事會員トシテ、明治六年九月(百三)日本
 政府ニ聘セラル。河川、砂防、^{港防等}、排水ニ土木工師トシテ
 多大ノ功績ヲ績シ、明治三十四年(百一)爲皇、其後三十五年
 (百三)日中勲二等ノ叙セラル。和蘭國ニ歸リシ後及死セ
 一時不明ナリニテ、最近ニ改メラル。

ルーエゴホリスト、ムルトル (H. J. Rohmer Gust Muller) ^蘭 素工學士

明治十二年(百一)日本政府ニ聘セラル。東朝、二十二年(1889)日中
 勲二等ノ叙セラル。二十三年(百一)和蘭國ニ歸リ、三十四年和蘭ニテ病死
 日中勲二等ノ叙セラル。和蘭國ニ歸リシ後及死セ

ウエストル、ウイル

明治十二年(1889) 千つセト共ニ來ルニ、工手トシテ、^シ工

No.

エ、印アリ ぬき年不明

イ、ア、カリス

ル年虫月(不明)未熟と、前記ウイル氏ト同く、工年トシテ

造り工事エ、印アリ、ぬき年不明、

本氏ノ履歴及消也

テ、アルノスト

未熟、ぬき年不明

ファン、マストロクト

共ニエ、子トテ、河リエ、ア、印アリ

此ルカ、河、海、ノ、
合、成、七、時、年、也

エルネリス・マハニス・ファン・ドールン

千八百三十七年一月五日ブルンメン市ハル村に生る。千九百六年二月二十日アマ
ステルダムに死す。宣教師の息。ユートレヒトのフローテ博士工書官学校に
学ぶ。更にデルフトの舊敎大学に入り千八百六十年技師の免状を受く。
同年ハールの鉄道計費のためステイレネン會社に入る。千八百六十二年技師
業の終了と共に母國へ歸る。アルクマールに於てニハエリスの下に國有
鉄道の布設に従事す。千八百六十五年三月ファン・ヘントの下に海運河
の肉鼓技師となる。スヘリングワウデに於てエイルの氷内、堰の建設を
委任され、その非常に困難な事業を良結果を以て完成せり。
千八百七十一年オランダアン博士より日本政府の招聘を受け、日本のため
その主任技師となる。工兵士官リンドと共に千八百七十二年日本へ向け出發す。
東京に於て河川の改修、港灣、トニネル、水道、運河に對する大計費に

東京外國語學校

着手す。若干の事業は実施され、本人は和蘭の技師より大に学ぶ
たり。而も彼等の計費は、彼等がこれに参加することなくして日本人によ
りて実施せられたるが屢ありたり。千八百七十三年ファン・ドールンの提
案に據り更に三人の技師が日本へ招聘せらる。併し日本人が和蘭人技師を
利用せしむる中に和蘭人は二三年の後は英國の技師によりて壓倒
せられたり。千八百八十年ファン・ドールンは本國へ歸還せり。千八百八十三年殖民
大臣よりキハラサオに於ける種々の土木事業の实地調査を委任され、
これに對して十かある報告をせり。歸路 和蘭商會社の委員
を受けシネガポールの砂糖園に於ける 鉄道改良の可能を調査せり。
和蘭鉄筋コンクリート工會社の設立に際し監査役會長と考たり。
ヘンゲットの土木叢書「道路」の部を執筆せり。結婚せず。

千九百六年青島の雜誌「インニエール」には「ペーレンセン 執筆の彼の

字表入りの経歴が掲載せられたり。

(以上モルハインセン博士並にプロックお換編輯にわくる⁷ 新和蘭人名辞典
も全譯)

東京外國語學校

51-22